

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690900259		
法人名	医療法人社団 長啓会		
事業所名	グループホーム京都向島の家(1号館)		
所在地	京都市伏見区向島庚申町32番地の5		
自己評価作成日	平成27年1月14日	評価結果市町村受理日	平成27年3月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosvoCd=2690900259-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会
所在地	〒600-8127 京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル梅湊町83番地1「ひと・まち交流館 京都」1階
訪問調査日	平成27年2月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

向島の家では御利用者様の自由と尊厳を尊重し大切にしながら笑顔・笑い声・感謝の声の溢れる場を目標として御利用者様・御家族様ならびに職員一同協力し合いながらホームの運営をおこなっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

伏見桃山にほど近い宇治川にかかる観月橋を渡って、東南にしばらく歩くと、明るい外壁を持つ二階建てが見えて来る。グループホーム「京都向島の家」と小規模多機能居宅介護事業所「京都向島」である。平成26年2月1日に静岡県浜松市に本拠を置く、医療法人社団長啓会が開設された。政本医院から端を発し、地元浜松市に介護老人保健施設を開設し、他府県や京都府にも地域密着型介護事業所等を手広く展開し、政本グループとして介護事業に貢献している法人である。政本グループの理念・運営方針と共に、事業所の「思い」を大切に日々の支援に努めている。特に低所得の高齢者も安心して利用できる様に行政との連携を密にして取り組んでいる。利用者の日常の生活記録を丁寧に行い、介護計画に反映させている。職員会議に引き続き勉強会を実施して、職員の質の向上を目指している。利用者職員が、共に「笑顔で暮らせる様に支援したい」という館長の強い思いは、利用者・職員の穏やかな笑顔から感じとれる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎週本部より送付される朝礼文により常に目に触れ認識実践出来るよう努力している	設立者である政本グループの理念は「我々 政本グループは福祉・介護サービスを提供し、高齢者の生活を支えるとともに、地域の雇用を守り、社会の安定に貢献します」と表明している。この理念に基づき事業所として「ゆったりと楽しく」「自由にありのまま」「仲間と一緒に暮らす」を理念として実践に努めている。毎週日曜日に本部より、「朝礼」として伝達事項が送信されてその中にも理念と運営目標が記載されており全職員に周知徹底させている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者の散歩時や会議地域のイベントへの参加などで話しかけたり話しかけられたりして交流を図っている。	自治会長や学区の社会福祉協議会会長との関係が密になっており、運営推進会議の出席と共に、地域の情報を得てイベントに参加出来る協力体制が出来ている。開設一年である所から、近隣との付き合いは親密になっているとは言えないが、雪の降ったおり事業所の前で利用者と一緒に雪だるまを作っていたら近所の方が手伝って下さった事もあった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在運営推進会議の門戸を広げる取り組みに着手しております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの現状や問題点などをプリント配布し会議出席者の皆様にご意見を頂戴しサービス向上に生かしている。	会議には、地域包括支援センター職員・自治会長・社会福祉協議会会長と事業所職員とで開催している。事業所の状況や行事等報告し、情報・意見交換を行っている。出席者から、災害対策についての質問が出たり、利用者獲得に関する意見が出されたり活発な意見交換が行われている。現在出席者が限定されているので、家族はもとより色々な立場の人達の参加を呼び掛ける事を重要課題と考えている。	家族等の出席が厳しいとの事ですが、引き続き話し合いを持たれると共に地域の方の出席を検討される事を期待します。例えば、すぐ近くの小学校の校長か教頭先生と話し合われて出席を乞われたら如何でしょう。それによって「幼老のふれあい」の機会を図れる事に繋がるでしょう。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当ケースワーカー報告・相談をこまめに行い緊密な関係を築いている。	議事録は行政に持参している。行政の担当者とは密接に連絡をとって協力関係を築いている。	

京都府 グループホーム 京都向島の家（1号館）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本拘束ゼロで今のところは対応できているが保安上の問題でエレベーターのみ暗証番号を設置しているが希望があれば職員同伴にて外出対応を行っている。	身体拘束をしないケアの実践に関しては、定期的に研修を行い、全職員が正しく理解して実践に努めている。日常的に身体的な拘束だけではなく、利用者の行動を抑制する様な言葉遣いや行動に対して配慮しながら支援に当たっている。時として職員が不用意な言動をした場合は館長が注意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修を通して認識・理解を深め職員同士のカンファレンスや管理者からの助言などで虐待防止の土壌を作っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	複数の利用者様が後見人や日常生活自立支援事業を利用されている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行い個別案件にも対応しご理解ご納得いただいている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様に対しても個別にお話を伺う時間も取っておりご家族様来訪時にはご意見をいただくようにしている。	家族等の意見に関しては、家族の来所時の会話や電話での連絡時にも意見等聞き取る機会にしている。利用者からは、日常的な会話の中から聞き取ったり、汲取ったりしている。運営に関する意見・要望等は殆ど出なくて、個人的な支援に関する事になっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一の職員会議にて職員の意見や提案を聞く機会を持っている。	職員からの意見は、日常的な業務の中での職員間の会話や週一回のリーダー会議・月一回の職員会議等から聞き取る機会にしている。館長は常に職員の意見に耳を傾け運営に反映させる様に努めている。職員から勤務体制についての意見が出され、双方向での意見交換を行って解決に向けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与規定や福利厚生などの改正などに積極的に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修受講を進めており資格取得などにも協力的にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	入居時や入所相談などで関係性のできた事業所との情報交換などを多くはないが行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心安楽をもとに積極的な関わりを持つようになっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	積極的にコミュニケーションをとりご家族様の不安不満な点を傾聴しお互いの信頼関係を深めていく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接を通して本人様の状態を把握し且つ本人、家族様の要望を聞きサービス内容を検討決定している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活をしているという意識を利用者様、職員共に感じられるような雰囲気づくりを心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などに家族だけで過ごされる時間、職員を交えて過ごす時間を組み合わせて行い共に支えあうといった意識を共有できるように心がけている。		

京都府 グループホーム 京都向島の家（1号館）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時に次回来訪を促したり出来る限りの外出支援（近所への散歩、買い物同行）を行っている	親しい友人等が来所されたらリビングでゆっくり談笑できる様に配慮している。遠方から家族が定期的に来所され一緒に外出されているケースもある。淀や伏見港公園等近隣の馴染んだ所に出掛けている。初詣には乃木神社に出掛けて喜ばれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席配置の工夫や様々なレクリエーションの導入し緩衝材として職員が介在することによって暖かな団欒の場を提供している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も必要に応じて相談に乗れる体制を準備している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その場面場面ごとや必要に応じてご本人様への意思確認を行っており職員に対しても利用者様本位の立場にたって行動出来るよう指導している。	初回面談で、生活歴や心身状況・今後の意向等聞き取って記録している。入所後は、日常の言動・表情等から、その人の希望や意向を聞き取ったり汲取って情報を追記している。その人らしい暮らしが出来る様に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートを読み込み、面会者が来られた際には昔のお話をお伺いしたりしながら情報を収集し連絡ノートや随時行うカンファレンスなどで情報を職員間で共有するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	関わりなどから得た情報を各種記録、カンファレンス、申し送りなどを通して情報の精査、共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時などに御家族様からの要望をお伺いし、日々の様子観察等からその時点で最もふさわしいケアプランを作成していく。	日常生活の中での会話・行動・表情・仕草等を記録してモニタリングに繋げている。モニタリングを基に三ヶ月で見直しを行っているが、必要に応じて見直しをしている。家族の意見や看護職からの医療情報（薬等）も勘案して、現状に即した介護計画を作成している。	

京都府 グループホーム 京都向島の家（1号館）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送り時に気が付いたことや気になったことも合わせて申し送りし検討が必要なことなどはカンファレンスの題材としている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在は訪問理美容の活用ぐらしか行えていないがニーズに応じて支援できるよう取り組んでいく。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議などを通して地域活動への参加を計画中。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携協力病院があり職員が定期受診に付き添っており病院とも良い関係が築けている。	基本的には、利用者・家族等の希望を尊重しているが、事業所として協力医療機関と提携し受診体制を確保している。定期受診には職員が同行し、医療機関と事業所双方向で情報交換して共有し適切な医療が受けられる様に支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週3回看護師が勤務しており情報を共有して支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	日頃より提携病院近隣の病院の地域連携室などと密に連絡を取り情報の交換を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族と話し合いを持ち出来る事と出来ない事を説明し支援していく。	本人の状況・家族等の事情を鑑みながら、医療機関等関係者と話し合いを重ね本人にとって最も適切な選択ができる様に支援していく考えを持っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応をマニュアル化してあるが今後、消防署主催の救急処置などへの参加などを計画中。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を年二回行って避難の方法などを学んでいる。	重要事項説明書に「非常災害対策」として非常時の対策を明記している。年二回防災訓練として、通報・初期消火・避難訓練等総合的に実地訓練を実施している。消防署職員の協力の下に昼・夜間を想定した訓練となっている。自治会長とも運営推進会議で災害についての意見交換を行っている。備蓄は食料品等保管している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重することを心がけ入室時などにはノック・声掛けをしてプライバシーに配慮をするようにしている。	年間研修計画の中に、「接遇について」「倫理・法令遵守・プライバシー保護について」を組み込み全職員に周知させている。本部からの「朝礼」の伝達事項の中にも「言葉遣い」について記載されており、利用者一人ひとりを敬い、プライドを傷つけたり、プライバシーを損ねない様に支援している。特に排泄・入浴時の声掛けには十分配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	関わり合いを大切にし何でも話し合える関係を築けるように努力している。自己決定を行いやすいような質問の仕方などを工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限りその方のペース・希望に応じた支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を毎月第一木曜日に行っている。衣類なども本人の好みのものを着ていただくようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一番の楽しみでもあるよく時の時間を楽しんでいただける様に支援している。食事準備や片づけは職員とともに行っていただいている。	朝食は職員が調理している。炊き込みご飯や焼き飯等と副菜も品数が多い。昼と夕食は給食センターからの弁当を利用している。ご飯と汁物は別に盛り付け暖かいものになっている。少量ずつ品数を多くして高齢者にやさしい献立になっており、ほとんど完食されている。お粥も用意して、個人に合わせられる様に配慮している。入所者は、後片付けを手伝ったり、おやつを職員と一緒に作る機会もあり楽しみの一つになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせて食事提供を行い個人別によく寺領や水分量のチェック表を活用している。		

京都府 グループホーム 京都向島の家（1号館）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に口腔ケアの声掛けを行っており出来ない方については職員が行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用しながら排泄パターンの個人別に把握し声掛けを行うなどして失敗を減らせるようにしている。	各個人の排泄パターンを把握して、声掛け等を行いながらトイレでの排泄に向けて支援している。現在の所、リハビリパンツとパットの併用が多い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給は小まめに声掛けなどをして促しており 日常に適度な運動を取り入れたりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来る限り本人の希望にそった入浴をしていただける様に考えているが人員上の為時間帯は限られてくる。	その日の体調や気分等配慮しながら、ゆったりと入浴を楽しんで貰える様に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望に応じて昼寝や居室での休息を取っていただいているが、夜間良眠出来るよう日中は活動的に過ごしていただける様、工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方副作用などの説明をファイルしてあり職員がいつでも確認できるような状態にしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人に応じた活動やお手伝いなどを職員と一緒にしている。 楽しみにしておられるTV番組などがあるときにはフロアに集まって皆案で鑑賞していただいている。		

京都府 グループホーム 京都向島の家（1号館）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人・家族の希望にそって買い物や散歩・ドライブなどを行っている。	日常的には、気候の良い日には近隣の散歩を心掛けている。季節の行事に花見や紅葉見物等組み込み外出の機会を設けている。ドライブに出掛けて喫茶店に立ち寄りコーヒーを楽しむ事もある。定期的に家族と出掛ける機会を持っている利用者もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の希望や金銭トラブルの原因になる可能性がある為施設にて金銭管理を行い買い物同行時も職員が管理している 例外的に影響のない金額を持っている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話・手紙の取次は勿論希望に応じて電話を掛けてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空調にて温度の管理を行い時折換気を行うなど配慮している。行事の写真や通信などの掲示を行い話題作りのきっかけを作っている。	玄関や廊下・リビング等共用空間はゆったりと清潔感がある。リビングは窓が多く、暖色系のカーテンが掛けられ明るい雰囲気になっている。装飾も華美にならない程度に、利用者の作品が飾られている。不快になる様な音や臭いもなく、落ち着いた空間になっており、利用者同志笑顔でおしゃべりに興じている姿があった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各場所に座れる場所を確保してあり思い思いの場所で寛げるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に出来るだけ馴染のものを持ってきていただくようお願いし安心して暮らせるよう支援している。	大きな窓と明るいカーテンでやさしい感じの部屋になっている。使い慣れた家具を使いやすく配置して、手作りの作品を壁に張っている。物入れは引き戸ではなく、カーテンと同じ色の布で仕切られているので利用者にとっては使いやすくなっている。「ここはいいとこやでー」と住人の声があった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の出来る事はしていただくように残存能力を維持していける様、声掛けの仕方や援助方法について職員で話し合っている。		